



全ての出会いが

やがてシナジーを生み出す

ALJ Myanmar CEO

濱口 健次

×

ALJ DXTech CTO

福嶋 将

【略歴】福岡出身。2012年、ALJにキャリア採用で技術者として入社。能力が認められ経営戦略室社長補佐に就任。2014年留学情報ポータルサイト構築の為、ロサンゼルスにブリッジSEとして赴任。翌年帰国し、複数の事業部を掛け持つグループリーダーに就任。社員のキャリアパス形成に関わる。2016年、自らミャンマー出向を志願し、ALJ Myanmar co.,ltd.の統括責任者就任、翌年にはバイスマネージャーとして経営戦略含む総合ディレクションを歴任し、2020年7月、CEOに就任。

【略歴】岡山出身。2017年、高等専門学校卒業後、新卒で教育系通信販売を行う大手企業の子会社にエンジニアとして入社。基板システムの改訂業務やAndroidタブレット対応のアプリ開発を行う。2020年2月、DX技術の普及とエンジニアの技術向上を目指し、有志によるITコミュニティを代表として創設。瞬く間に数百人規模のコミュニティとなる。同年5月、ALJ DXTech株式会社設立、CTO就任、ALJのICT事業本部のマネージャーを兼任。

大手企業を経験してからALJに入社し、現在子会社でCEO、CTOとして重要なポストに就いているお二人に、その経緯とALJについてお聞きしました。

大企業からベンチャー企業へ

まずは、ALJ入社までの経緯を教えてください。

濱口 専門学校を卒業後、大手のIT企業に新卒で入社し、三年間勤めました。その会社では同じプロジェクトにしか関われなかったこと、他の業界に興味が出たことで、IT業界から一旦離れ、三年間フリーターとして様々な業種を経験しました。その結果、やっぱり僕にはIT業界が向いているなと感じ、再就職したのがALJでした。

当時のALJはゲームアプリの研究開発もしていたので、アプリ制作に挑戦できると思ったのが入社理由でした。

福嶋 私は新卒で地元岡山のS-I企業に入社し、三年勤めてから、今年ALJに入社しました。前職では教育系通信販売を行っている会社の基幹システムや物流の改定作業をし、途中から東京に移動し、アンドロイドのアプリ開発など様々なプロジェクトに挑戦しました。なので、業務内容には満足していましたが、自分の思い描くような出世はそこでは叶いそうにないなと感じていたんです。ALJ Education Plus(以下、ALJEP)の山本社長に釘嶋社長を紹介していただき、お話を聞くうちにALJはエンジニア以外にもスキルの幅が広げられそうな会社だなと思い、ALJに入社することを決め、今年の5月からALJ DXTech(以下ALJDX)のCTOに就任しました。